

## 越後 水無川真沢～祓川

会山行で2泊パーティーを設けた。担当2人と笹川さんのみというちょっと寂しい結果となったが、真沢の遡行は快適そのもので、思い出に残る山行となった。

9月2日(金)：晴

初日に北沢出合まで行って泊まりたい。定番だが、見事だという巨大な両門の滝を眺めながら過ごしたいので、初日の行程が一番長い。今季初の泊りの沢である私は緊張して、つつい出だしの林道歩きが足早になってしまった。笹花沢出合で踏み跡が不明瞭になるので沢に降りる。

しばらくは川原歩きだが、なんとも暑い。デトノアイソメには雪はひとかけらもなく、その先にも雪渓の気配はない。暗峡ではへつることもできるが、水に入っちょうどいい心地なので私は積極的に泳いで通過した。徐々に沢幅が狭まってくると、ゴルジュの先に7mほどの滝が垣間見える。ここを直登は考えられないらしい。まあ、そうですよね、ということで定石通り手

前のルンゼ状から長い高巻きに入る。灌木帯を進んでいくと御月山沢手前の支沢に行き当たる。灌木には懸垂用の残置スリングがあり、皆ここを降りているようである。25mほどの懸垂で降りると、威圧的な御月山沢の滝を横目にトラバースして再度灌木帯に入る。できるだけ低めに進みたいが、灌木帯まで上がった方が確実だ。深いゴルジュ帯が終わるところにある緩い草付きスラブが沢床へと導いてくれたので懸垂不要だった。懸念していた高巻きだっ

たが、2時間ほどで終わることができてホッとする。西沢を分けて少し進むと直登困難な10m滝が現れた。左の草付きスラブから灌木帯に逃げる。その上の10m滝も直登できない形状なので、まとめて巻いて斜め懸垂40mで落ち口に下り立った。

右岸の岩棚を辿っていけば関門の滝の取りつきだ。難しくはないようだが念のためロープを引き、途中一か所見つけたハーケンでランニングを取ったのち、50mいっばいでテラスに出たのでここでピッチを切る。残置は何もないのでハーケンを打った。



【関門の滝】

【日程】

2016年9月2日(金)

～ 9月4日(日)

【メンバー】

大田原(L)、飯田、笹川

【グレード】4級

【地形図】八海山

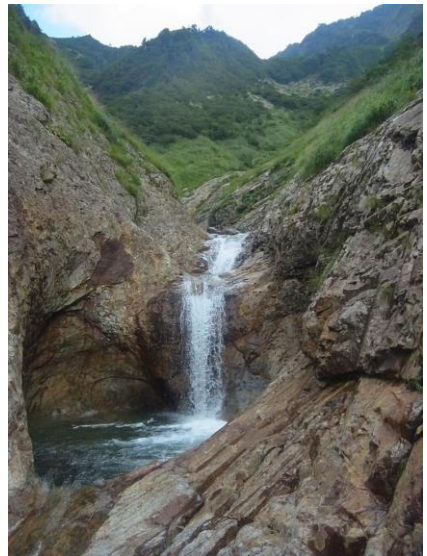
【記】大田原



【御月山沢出合付近のゴルジュ】

すぐ上は逆くの字状に落ちる豪快なナメ滝。右壁が重荷だとちょっと辛い感じだが、飯田さんがお助けひもを下さった。上段は左壁を快適に越えた。直後の12m滝は一見高巻きかと思われたが、背後から飯田さんが「登れるんじゃない？」というので取りついてみたら、意外と簡単に登れた。続く3m滝も右壁から登れたが、その次の3m滝が取り付きづらい形で右岸を小さく巻いた。ここまで来ると明るく開けた20mナメ滝とその上に幣ノ滝が見え、壮観だ。予定よりずっと順調に北沢出合着。行程も2泊と余裕があるので迷わずテン場と決めた。

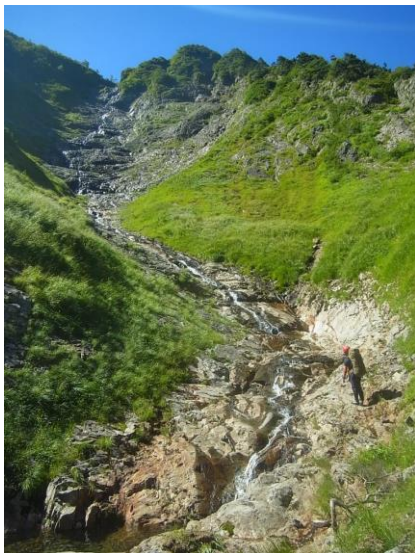
思ったより平らなところがなく、若干の傾斜地にツェルトを張った。薪集めの途中で、寝不足な3人はそろって岩盤上で昼寝。これがとても気持ちよかった。のんびりとたき火を始め、新月を過ぎたばかりの空に満天の星が輝き、天の川まではっきり見える中、快適な夜を過ごした。



【釜はえぐれてハート形♥】

## 9月3日(土) : 晴

今日は中ノ岳避難小屋に泊まるつもりなのでのんびり行程。朝もたき火をして出発。まずは幣ノ滝の登攀から。真沢北沢合流点近くで北沢をひとまたぎして真沢に移る。一見滑って見えるが登りやすい中央から右方へと登っていき、中間部のテラスまで上がる。ここから水流を受けながら左上していき、落ちたらタダでは済まないなのでロープを出す。水流の中に快適なガバを探すがあんまりない。慎重に水流を越え、そのまま水流の左端を登って灌木でピッチを切る。2p目は飯田さんが落ち口までロープを引いてくれた。少々ゴロを歩くと25m滝。いきなりでビックリするが、右のスラブからの巻きは易しい。すると前方に白竜の滝登場。登場といっても右側壁から落ちるような形状なので手前からはよく見えない。CS3mを登って滝を見に行く。右壁を登るパーティーもあるようだが、我々にはそんなつもり毛頭なし。手前の草付きスラブから簡単に高巻く。白竜の滝落ち口も緩い草付きスラブなので、懸垂不要で降りられた。



【祓川大滝】

ナメに癒されながら歩くとすかさず右手にドドンと祓川大滝が聳える。大きすぎて「祓川と違うんじゃない？」と心配するメンバーまでいた…。地形図上も間違いないので、まあ行ってみましょうと3人とも好きなルート取りで自由に登っていく。傾斜が緩いので快適。ただ、大きくて疲れる…。落ち口直下で右岸側に集まり、念のためロープを出す。ガバが多く、最後まで快適だった。だが、直後のトイ状6mが重荷には少々いやらしかった。その後はもはやデート沢と呼べるような癒し系。大滝に疲れた我々を癒してくれる。三俣は滝で交わる右にルートを取り、テクテク歩けば藪漕ぎもなく登山道横断点だ。ここで小屋泊りに備えて水を大量に汲むが、あまりの暑さに汲んだ水に匹敵する大汗をかきながら登山道を登ることになった。

小屋には縦走者がいたが、スペースは十分に確保できた。

中ノ岳の稜線からは登山道を十字峡から登ってくる植島さんと三坂さんを目視できるが、この暑い中大変そうだ。各パーティーがいるはずの沢筋を見下ろしながらのんびり過ごした。夕方には登山道パーティーと合流し、5人で宴会となった。日没の頃に外に出て、みんなで展望を楽しむ。なかなか沢登りでは味わえない過ごし方だ。その後夕食に移るが、小屋にいるのは縦走者ばかりで皆就寝が早く、気を遣いながらの夜支度となった。

### 9月4日(日) : 晴

朝は早くから縦走者たちが出かけていく。日の出を見ながら縦走者たちを見送り、再び展望を楽しむ。あまりにも景色が良くて山座同定に忙しい。でも支度はのんびり。出発して見下ろす日向山にはまだ人影は見えない。周囲の展望を楽しみつつ日向山へ急下降。途中コウガイ沢を見通せるポイントで3人が遡行しているのが見え、大声で呼んでみたが届かなかったようだ。日向山に着くと、すでにコブシ沢パーティーが休んでいた。その後続々とパーティーが集まり、予定の12時に



【日の出とともに現れた『影』中ノ岳】

には楽しい集中を達成することができた。『全員無事に山頂集中』。担当としてはこれより嬉しいことはない。満足感に浸りながら十字峡へ向けて全員で出発。この下りは暑くてみんな辛そうだった。それぞれ思い思いに給水休憩を取りながら十字峡に到達し、山行を終えることができた。

真沢については、結果的に雪渓もなく天気にも恵まれて1泊2日でも余裕な行程となった。体感グレードは3級上と思ったが、先人たちの記録を読んでいたこと、ラバーソールの沢靴という越後向きの足回りだったことも、体感グレードがワンランク下がった理由だろう。でも、雪渓なし、好天気、足回りのどれかの条件が欠けていたら大変だっただろう。そういう意味ではやはり真沢は4級を下らない存在だと思う。

### 【行程】

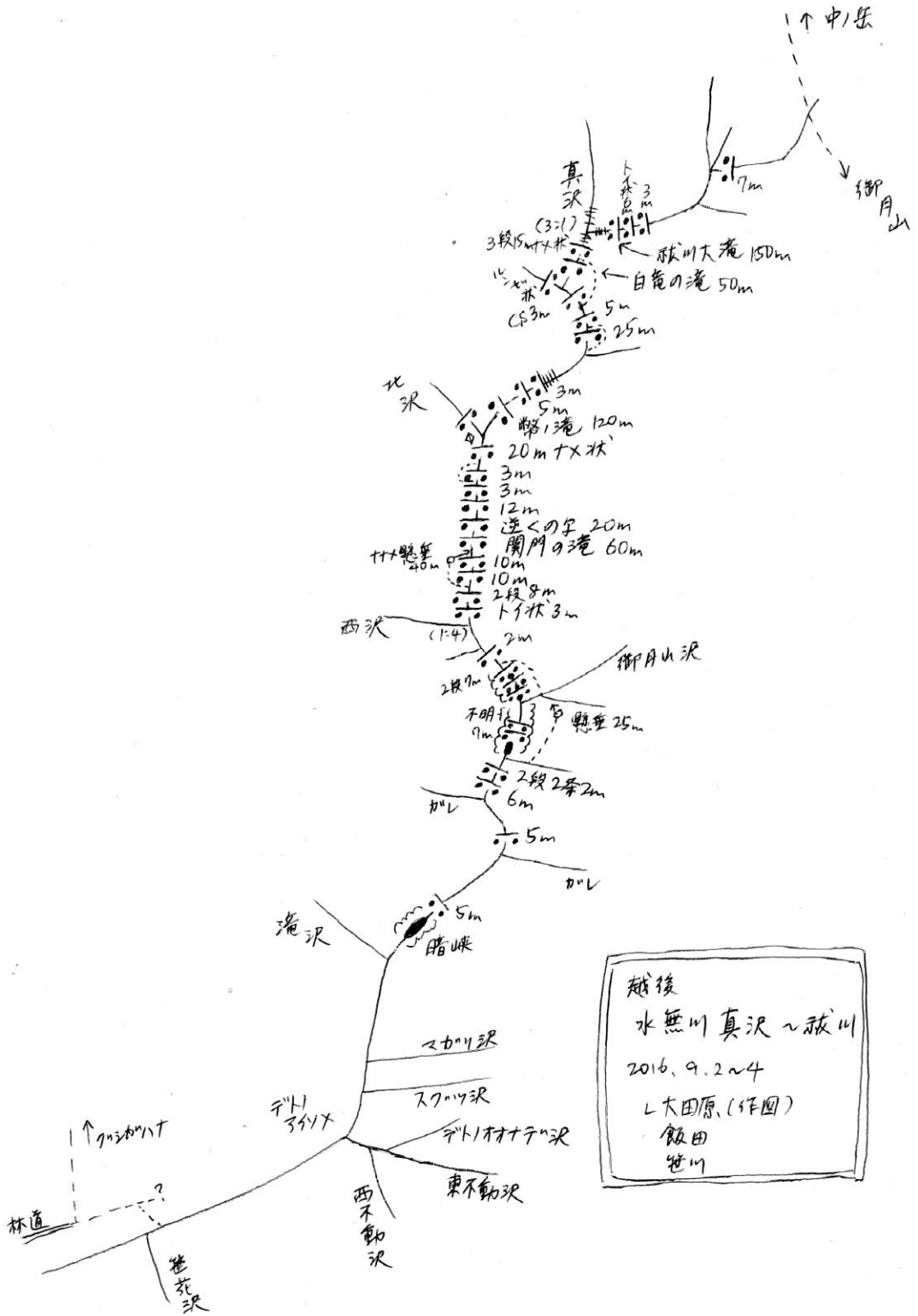
9/2 森林公園駐車場(6:35)～笹花沢出合(7:30)～暗峡(8:45)～御月山沢手前高巻き開始(9:35)～高巻き終了(11:20)～関門の滝下(13:05)～北沢出合 BP(15:05)

9/3 BP(7:05)～幣ノ滝上(8:05)～白竜の滝下(8:45)～祓川出合(9:39)～祓川大滝上(10:50)～登山道(11:50/12:10)～中ノ岳避難小屋(13:05)

9/4 中ノ岳避難小屋(8:55)～日向山(10:30/12:10)～十字峡(13:30)

【北沢出合の両門の滝】





越後  
水無川真沢~萩川  
2016.9.2~4  
L大田原(作図)  
飯田 健川